

市議会最終日～なすまどか議員が質疑

コロナ関連支援策のさらなる充実を！

国会においてコロナ関連の2次補正予算が成立したことから、市議会最終日に新たな補正予算が提案されました。なすまどか議員は、対策のさらなる充実を求め質疑を行いました。

クラウドファンディングへの支援を福祉・文化分野にも！

今回、中小企業が販路拡大などを目的にクラウドファンディングを行った際に、最大30万円を助成する予算が提案されました。

なす議員は、障がい者就労継続支援事業所など、福祉分野や文化・芸術分野にも支援の対象を拡充するよう求めました。

クラウドファンディングとは？

自らの事業ややりたいことなどをネットを通じ広く知らせ、共感してくれた方からの支援で、資金を調達する仕組み。コロナ禍のもと、飲食業や文化関連での活用が急増しています。

ホールや会議室の使用料増加分の支援を！

3密対策で、より広いホールを利用した場合に増加した使用料を補助する予算が提案されました。しかし対象がコンベンション主催者のみとなっていることから、なす議員は、市民や市内各種団体も支援の対象とすることを求めました。

大西市長は「市民や各種団体の使用料増加分も含め、支援のあり方を工夫していく」と答弁しました。



日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階
発行：日本共産党熊本市議団
上野みえこ なすまどか

NO. 1193
2020年7月5日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団



検索

バスと同様に乗客が激減した市電にも支援を！

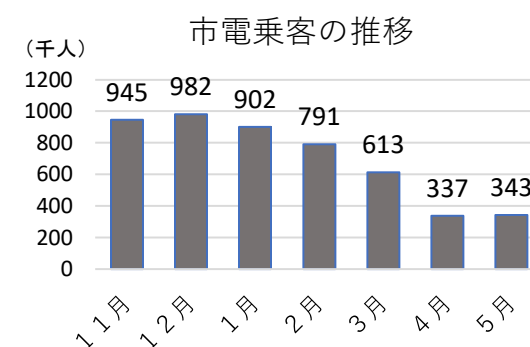
補正予算では、コロナにより乗客が減少したバス事業者に対し、路線を維持するための3億6,320万円の支援が提案されました。

なす議員は、市民の交通手段を守るためにも、バス事業者のみならず市電についても支援を行うよう求めました。

市電については、自粛期間が設けられた4月、5月の乗客・運賃収入が3分の1に減少しています。運転手の給与や路線

や電車のメンテナンスなど安全な運行を行うためにも、減少した収入への支援が必要です。

大西市長は「交通局の収支等を踏まえ検討したい」と答弁しました。



【控室から】 質疑のあり方と議会活性化

なすまどか



自分の意見を自由に言える一般質問と違い、本会議での質疑は、提案された予算や議案に対してのみできるという制限があります。今回、最終日の質疑を準備している際に「私の質疑は提案された予算に対してではない」との指摘が議会事務局よりありました。私の質疑は、この紙面でお知らせしている通り①クラウドファンディングへの支援を中小業者のみと限定せず、福祉分野など幅広く行うべきでは？②ホール等の使用料増加分への支援は、コンベンション主催者のみではなく市民へも行うべきではないか？③路線維持のための支援は、バスだけではなく市電にもおこなうべきでは？というものでした。私への指摘は、「局をまたぎ別分野への新たな予算を求めるものであり、厳密に言えば予算そのものの質疑ではない」という主旨でした。私は「予算について、さらなる拡充を求めることは当然であり、質疑のあり方を限定することは議会活性化にも反する」と主張し、最終日に質疑を行いました。質疑のあり方と議会活性化について、改めて考えさせられる出来事でしたが、可能な限り自由に議論を行い、市民から信頼される議会となるよう、議会のルールそのものも改善していく必要性を感じました。



（上野みえこ議員の一般質問報告 その3）

日本共産党市議会だより 2020 年 7 月 5 日号 (No.1193)

少人数学級の拡充、今がチャンス！ 「新しい生活様式」を踏まえた学校現場に 40 人学級では、「レベル 1」にも対応できない

文部科学省が 5 月に公表した「新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」では、「新しい生活様式」を踏まえた学校での身体的距離の指標を示し、ゆとりある空間での授業を推奨しています。

密集回避の目安として、感染レベル 2・3 では「2m 程度」の間隔で 20 人学級を例示し、レベル 1 でも「1m」の間隔が必要で 40 人学級では必要な間隔を空けられないと指摘しています。



国は 2 次補正で、小6・中3の少人数編成を推奨

文部科学省が新型コロナ対策にかかる 2 次補正予算に打ち出した効果的な学習保障の人的支援として、小中学校の最終学年である小学 6 年生、中学 3 年生を対象に少人数学級の編成を可能とする「教員の加

配」があります。感染状況に応じて少人数編成を支援するものです。この補助メニューを活用すれば、小 6・中 3 での少人数学級に踏み出すことができます。少人数学級拡充のチャンスです。

現場の声に応え、補助メニュー活用で少人数学級拡充を

35 人学級のための教員増員数は、小学 6 年で 27 人、中学 3 年が 32 人、合計 59 人です。

上野みえこ議員は、現場の声

に応え、新型コロナウイルス感染症のもとで 3 密を避けた授業環境のためにも、少人数学級拡充へと足を踏み出すことを求めました。

販売先の減少で苦勞されている 障がい者作業所への支援拡充を！ 生活に欠かせない作業所、販路確保・減収補てんは急務

きょうされん全国事務局の調査では、イベントの自粛等による販売機会の減少で作業所の半数以上で工賃が減っていると回答されています。

障がい者施設は、訓練の場・働く場・生活する場であり、生活に欠かせない存在です。

販売先等の減少で作業所の業績が落ち込み、存続が厳しい状態になっています。仕事ができなくなる状況が続けば、障がい者の暮らし・日々の生活が成り立たなくなります。障がい者作業所への減収補てん・販路確保への支援は急務です。



不足しているマスク・消毒などの速やかな提供を

障がい者施設では、マスクや消毒などの感染防止材料が現物給付となって、現場にきちんと届いていない状況があります。市は 3 月に「衛生用品の必要数調べ」を行いました、そ

の結果が生かされていません。保育所や児童館へは、1 ヶ所 50 万円の購入予算が 2 回も確保されています。上野議員は、実態把握と、同程度の支援を速やかに行なうよう求めました。

就労系障害福祉サービス機能強化事業の積極的活用を

国の 2 次補正予算を受け、「就労系障害福祉サービス等機能強化事業」として、作業所等の生産活動再開に必要な設備のメンテナンス等に活用できる助成が提案されました。1 ヶ所 50 万円を上限に 120 カ所分約 6,000 万円の予算です。上野議員は、障がい者作業所の実情に合わせた柔軟な対応と、積極的に活用を求めました。